

脱炭素社会の構築

世界的に脱炭素化の動きが加速する中、東海理化グループでは、グローバル企業の責任として取り組みを一層強化し、車両の燃費向上に貢献する製品の小型化・軽量化や生産・輸送で使用するエネルギーの利用効率化など、CO₂低減の活動に取り組んでいます。

製品の軽量化・小型化設計の推進

シフトバイワイヤのECUにおいては、設計を大幅に見直すことで、基盤CP構成を3枚から1枚へ低減しました。この改善により、製品重量を約30%軽量化しました。

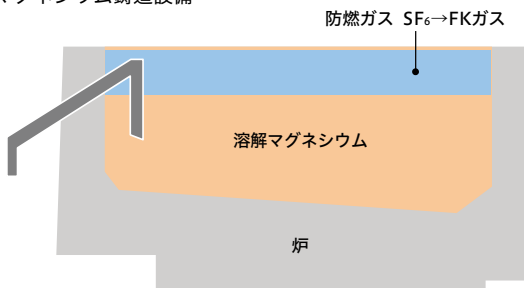


温室効果ガス排出量の低減

マグネシウム鋳造工程では、溶解したマグネシウムが空気に触れて発火することを防ぐ防燃ガスにSF₆※を使用しているため、温室効果の小さいFK(フッ化ケトン)ガスへの代替化を進めています。国内拠点の代替化は完了し、海外拠点の代替化を2030年完了の計画で進めています。

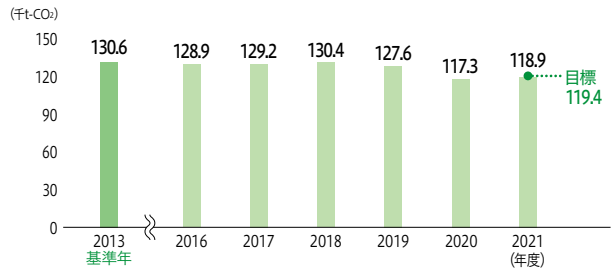
※SF₆の地球温暖化係数は、CO₂を基準として23,900倍と大きく、排出抑制対象である温室効果ガスの1つに指定されています。

マグネシウム鋳造設備



エネルギーCO₂排出量の低減

エネルギーCO₂排出量(グローバル連結)



工場CO₂の低減

成形、鋳造、半導体、メッキ、熱処理などの工程ごとにワーキンググループを組織し、生産設備の徹底的な省エネを進めています。2021年度は612件の改善を実施し、1,120 t-CO₂の低減をすることができました。実施した改善事例の中で、応用性、着眼点が特に優れたものは、社内表彰を行い、従業員の意識向上を図るとともに、他工場へ水平展開しています。

2021省エネ優秀事例

金賞	・プレス動作を利用したエア供給の自前化
銀賞	・コネクタ成形機 エアブロー間欠化 ・金属メッキ脱脂工程の低温化
銅賞	・熱処理炉運転立上げ・立下げJIT化 ・コンプレッサの寄せ止め ・コンプレッサ用冷却水ポンプのインバータ化

再生可能エネルギーの利用

電気使用量に占める再生可能エネルギーの割合を、2030年までに25%以上にすることを目標に掲げ、太陽光発電など、再生可能エネルギーの導入を進めています。2021年度は、萩工場とタイの2拠点に太陽光発電を導入し、再エネ率は6.1%に向上しました。



東海理化 萩工場



TRT(タイ)